

港区の現状から考える

コロナ禍と外国人住民

日時：令和2年9月30日（水）14時～16時

場所：港図書館 2階 集会室

港区は名古屋市で2番目に外国人住民の多い地域です。新型コロナウイルス感染拡大の中、外国人住民はどのような状況で暮らしているのか、私たちに何ができるのか、一緒に考えてみませんか。

<プログラム>

第1部：報告：「生活福祉給付金の特例制度」について～港区の現状～

（港区社会福祉協議会 伊藤三郎 事務局長）

第2部：シンポジウム：「港区の現状から考える コロナ禍と外国人住民」

【パネリスト】

ロサーナ タピル 氏 （「Aichi Migrants Workers」コーディネーター）

海渡 タナ 氏 （「モンゴルレストラン郷」オーナー）

戸谷 マリアム 玲子 氏 （「NPO 子どもと女性のイスラームの会」代表理事）

【コーディネーター】

川口 祐有子 氏 （「NPO まなびや@KYUBAN」代表）

申込：9月11日（金）9時30分から 電話または港図書館窓口にて

定員：13名（先着順）

- *当日は主催者側の記録用にビデオで撮影します。後日、名古屋市の「まるはっちゅーぶ」でダイジェスト版を配信する予定です。
- *報告書を「名古屋市図書館ホームページ」に掲載します。
- *会場に「多文化共生に関する図書」を展示し、貸出を行います。
- *新型コロナウイルス感染症の影響により、内容が変更・中止となる場合があります。

主催：名古屋市港図書館（港区港楽1-14-16）電話：052-651-9249 FAX：651-9250

協力：NPO まなびや@KYUBAN、港区社会福祉協議会